

将来計画（2022～2030年度）に対する自己点検評価報告書（2023年度）

自己点検・評価委員会

1. 自己点検評価の対象

2023年度の自己点検評価は、新潟食料農業大学将来計画の第一期中期目標・中期計画（2022～2026年度）におけるアクションプラン（2022～2026年度）総数 373 項目の内、2023年度を達成年度とする計 283 項目を対象に、その達成度について点検評価を行った。

なお、自己点検評価は、ドメインごとにそれぞれのドメイン責任者が以下の基準に基づき実施し、その結果について自己点検・評価委員会にて審議・承認した。

<自己点検評価の基準>

- S評価 年次計画を上回る実績を達成した
- A評価 達成/ほぼ計画どおり（達成度 90%以上）
- B評価 部分的達成/一部達成あるいは計画より遅れている（達成度 51%-89%）
- C評価 遅延/大幅に遅れている（達成度 11%-50%）
- D評価 未着手/ほとんどもしくは全く着手できていない（達成度 10%以下）

ドメイン		総アクション プラン数	2023年度 実行計画分
ドメインⅠ	大学拡充計画の推進	23	20
ドメインⅡ	教育の質保証	61	42
ドメインⅢ	研究力の向上	49	37
ドメインⅣ	社会連携の充実	35	27
ドメインⅤ	国際交流活動の推進	19	8
ドメインⅥ	学生支援の充実	89	70
ドメインⅦ	大学スポーツ振興の推進	29	22
ドメインⅧ	学生募集活動の強化	26	24
ドメインⅨ	内部質保証システムおよび大学ガバナンスの強化	42	33
	計	373	283

2. アクションプランの達成状況

2023年度アクションプランの達成状況は、全体で「S評価：年次計画を上回る実績を達成した」が 1.4%（4項目）、「A評価：達成/ほぼ計画どおり（達成度 90%以上）」が 82.0%（232項目）、「B評価：部分的達成/一部達成あるいは計画より遅れている（達成度 51%～89%）」が 7.4%（21項目）、「C評価：遅延/大幅に遅れている（達成度 11%～50%）」が 4.2%（12項目）、「D評価：未着手/ほとんどもしくは全く着手できていない（達成度 10%以下）」が 5.0%（14項目）であった。

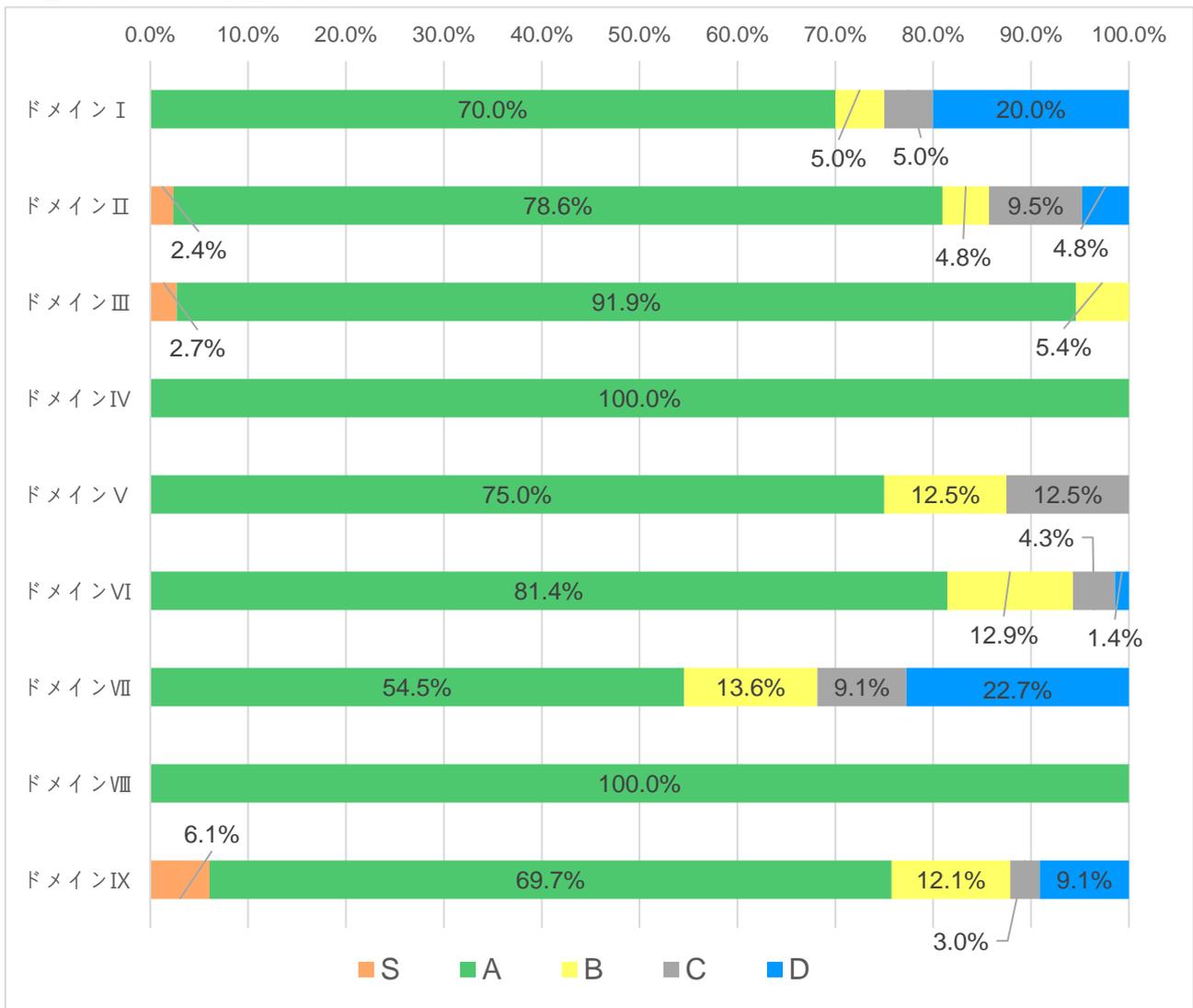
ドメイン別にみると、A評価以上の割合が 90%を超えているのは「ドメインⅢ・Ⅳ・Ⅷ」、80%を超えているのは「ドメインⅡ・Ⅵ」であった。一方、C評価およびD評価の割合が高かったのは、順にドメインⅦ（31.8%）、ドメインⅠ（25.0%）、ドメインⅡ（14.3%）であった。

ドメイン別の詳しい状況は次ページの<表 1>および<図 1>を参照。

<表 1> ドメイン別評価基準別度数

ドメイン		2023 年度 実行計画分	評 価				
			S	A	B	C	D
ドメイン I	大学拡充計画の推進	20	0	14	1	1	4
ドメイン II	教育の質保証	42	1	34	2	4	1
ドメイン III	研究力の向上	37	1	34	2	0	0
ドメイン IV	社会連携の充実	27	0	27	0	0	0
ドメイン V	国際交流活動の推進	8	0	6	1	1	0
ドメイン VI	学生支援の充実	70	0	58	8	3	1
ドメイン VII	大学スポーツ振興の推進	22	0	12	3	2	5
ドメイン VIII	学生募集活動の強化	24	0	24	0	0	0
ドメイン IX	内部質保証システムおよび大学ガバナンスの強化	33	2	23	4	1	3
計		283	4 (1.4%)	232 (82.0%)	21 (7.4%)	12 (4.2%)	14 (5.0%)

<図 1> ドメイン別達成状況



3. 評価

2023 年度アクションプランに対する自己点検評価を実施した結果、「S 評価：年次計画を上回る実績を達成した」及び「A 評価：達成/ほぼ計画どおり（達成度 90%以上）」が全体の 83.4%を占め、それぞれの推進部署にて計画どおり進捗することができていると評価した。

一方、A 評価以上の割合が最も低いドメインⅦについては、強化部会議の実体性や監督・事務局等の連携体制が不十分であることも進捗遅れの要因であると分析されるため、2024 年度は推進体制について見直しを図る必要がある。

併せて B 評価～D 評価であったアクションプラン（計 47 項目）については、2023 年度の進捗状況を踏まえ以下のとおり改善・対応する。

【未達成アクションプランの状況と改善方策】

《ドメインⅠ》大学拡充計画の推進

■ 中期計画 1

2024 年 4 月を開設年度とする新たな学部学科の設置企画を推進する。

アクションプラン 2

- 学部学科設置に係る文部科学省への申請準備を確実に実行し、設置申請する。

（自己評価） D

（進捗状況） 2024 年度に計画されていた新たな学部学科の設置企画について、学校法人全体の学部・学科等新設構想の見直しにより、事業年度を見直すこととなった。

（改善方策） 2024 年度以降、アクションプラン 4「食・農および環境分野を基盤とする SDGs の達成に貢献する新たな学部学科等を構想し年次計画案を策定する。」に含む計画として継続的に検討・対応する。

アクションプラン 3

- 特色化・魅力化を踏まえた校舎等の建設計画を策定し、実行する。

（自己評価） D

（進捗状況） 2024 年度に計画されていた新たな学部学科の設置企画について、学校法人全体の学部・学科等新設構想の見直しにより、事業年度を見直すこととなった。

（改善方策） 2024 年度以降、アクションプラン 4「食・農および環境分野を基盤とする SDGs の達成に貢献する新たな学部学科等を構想し年次計画案を策定する。」に含む計画として継続的に検討・対応する。

■ 中期計画 5

教育研究機能および社会連携推進機能の更なる充実化に向けた施設整備計画を策定する。

アクションプラン 12

- 胎内キャンパスにおける講義室および図書館の拡充、研究施設の充実等について検討する。

（自己評価） D

（進捗状況） 未着手のため、次年度継続課題とした。

（改善方策） 2024 年度以降の将来構想に伴い、新校舎建築や開発に係る場合は法人企画部にて主導し、現存校舎の改修のみの場合は大学主導で対応する。併せて、利用者等へのアンケート調査やヒアリング等を通じて、現状の課題やニーズを確認し、充実化に向けて継続

検討する。

アクションプラン 13

- 新潟キャンパスにおける社会連携推進機能の拡充等について検討する。

(自己評価) D

(進捗状況) 未着手のため、次年度継続課題とした。

(改善方策) 2024年度以降の将来構想に伴い、新校舎建築や開発に係る場合は法人企画部にて主導し、現存校舎の改修のみ場合は大学主導で対応する。併せて、利用者等へのアンケート調査やヒアリング等を通じて、現状の課題やニーズを確認し、充実化に向けて継続検討する。

■ 中期計画 8

新潟医療福祉大学と協働し、本学新潟キャンパスを含む北区島見町エリアの開発計画を立案する。

アクションプラン 21

- 新潟医療福祉大学との共同研究施設「健康共創科学研究所（仮称）」の設置計画を推進するとともに開志専門職大学および事業創造大学院大学等との教育・研究連携拠点としての機能を充実させる。

(自己評価) C

(進捗状況) 新潟医療福祉大学と連携し共同研究所の構想は描いたものの、設置資金獲得施策が確定しないこともあり、具体的な計画の進行は中断中。

(改善方策) 2024年度は新潟医療福祉大学と協働し、財務本部との連携を図り資金計画を確認するとともに、設置計画の具体化を進めていく。

■ 中期計画 9

新地域特性を活かした学外での教育・研究フィールドの拡充計画を推進する。

アクションプラン 22

- 胎内キャンパスに隣接する旧給食センターの活用について検討する。

(自己評価) B

(進捗状況) 10か年将来構想の検討において、いくつかの活用案を検討していた中、施設の老朽化および風雪等による破損の可能性が発生した。

(改善方策) 学生および地域に危害を及ぼさないよう安全管理を重視する点から、将来的活用と併せ撤去の方向性も加えて引き続き検討する。

《ドメインⅡ》教育の質保証

■ 中期計画 2

カリキュラムと CP および DP の整合性・一貫性を点検・評価し、必要に応じてカリキュラムを改定する。

アクションプラン 10

- 新カリキュラムにおけるカリキュラムマップを策定・公表するとともに教員・学生への周知を徹底する。

(自己評価) B

(進捗状況) 新カリキュラムにおけるカリキュラムマップは策定し、教授会にて専任教員への周知は完了した

が、非常勤教員および学生への周知まで及んでいない状況である。

(改善方策) 学内ポータルサイト (UNIPA) およびメール等により、非常勤教員と学生へ速やかに周知する。

■ 中期計画 3

シラバスを改善するとともに学生への浸透度を向上させる。

アクションプラン 16

- シラバスに則した授業の実施を促すとともに継続的にシラバスを確認・点検し、必要に応じて見直しを行う。

(自己評価) C

(進捗状況) シラバスに則した授業の実施については教授会を通じて促すことができたが、シラバスの策定の遅れにより、確認及び点検まで至ることができなかった。

(改善方策) 速やかにシラバスの確認及び点検を行い、必要に応じて見直しを実施する。

■ 中期計画 4

履修体系図を策定し、体系的・構造的なカリキュラム運営を継続する。

アクションプラン 17

- 新カリキュラムにおけるカリキュラムマップに基づき、カリキュラムツリーを策定・公表する。

(自己評価) B

(進捗状況) 新カリキュラムにおけるカリキュラムツリーを策定したが、まだ公表まで至っていない。

(改善方策) 2024年度のアクションプランに追加設定の上、策定したカリキュラムツリーについて速やかに公表する。

アクションプラン 18

- カリキュラムツリーを活用して学生への履修指導を実施する。

(自己評価) C

(進捗状況) カリキュラムツリーの策定が遅れた影響もあり、履修指導の実施まで至らなかった。

(改善方策) カリキュラムツリーを活用した学生への履修指導について、必要な認識共有を図り、速やかに実施する。

■ 中期計画 5

新たな初年次教育の効果や効率、課題等について検証し、必要に応じて見直しを行う。

アクションプラン 23

- 新たな初年次教育の効果や効率、課題等について検証し、必要に応じて見直しを行う。

(自己評価) D

(進捗状況) 未着手のため、次年度継続課題とした。

(改善方策) 教務委員会及び教務課との連携のもと、速やかに検証する機会を設け、必要に応じて見直しを行う。

■ 中期計画 7

教学データを収集・分析し、教育情報を公表する。

アクションプラン 26

- IR推進センターと連携し、教学データの対象・収集方法および分析手法・活用方法ならびに公表範囲等の方針を策定する。

(自己評価) C

(進捗状況) IR推進センターと連携し、アセスメントプランとして教学データの対象・収集方法は策定したが、具体的な分析手法・活用方法ならびに公表範囲等の方針策定までは至らなかった。

(改善方策) 2024年度のアクションプランに追加し、IR推進センターとの連携のもとで速やかに対応する。

■ 中期計画 13

資格取得に向けた教育プログラムを充実させる。

アクションプラン 45

- 就職に有用な資格・検定等を奨励する正課外の教育支援プログラムを検討し、断簡的に導入する。

(自己評価) C

(進捗状況) 学務課にて正課外の教育支援プログラムを検討するまでに留まった。

(改善方策) 検討結果に基づいて正課外の教育支援プログラムを選定し、断簡的な導入を進める。

《ドメインⅢ》研究力の向上

■ 中期計画 12

産業界・自治体および大学間連携を促進し、外部資金を獲得する。

アクションプラン 45

- 国内外問わず類似の研究機関の取り組み等について継続的に調査・分析する。

(自己評価) B

(進捗状況) 2022年度に引き続きハイアウト制度・短期留学制度について、他大学の取り組みや本学での導入の検討を継続した。なお、国外の研究機関の調査・分析については、次年度継続検討とする。

(改善方策) 2023年度に引き続き、海外のベンチマークを明確にした上で調査・分析を進める。

■ 中期計画 13

認知度向上に向けた情報発信力を強化する。

アクションプラン 49

- 独自サイトの作成およびSNSの活用等のWEBプロモーションを強化するとともにメディアミックス型の情報発信を推進し、パブリック・リレーションズを促進する。

(自己評価) B

(進捗状況) 研究機構関連の情報発信が進捗していない。

(改善方策) 研究機構との連携を密にし、「情報提供→情報発信」の仕組みを構築していく。

《ドメインⅤ》国際交流活動の推進

■ 中期計画 2

国際化を推進するための組織体制・制度等について検討し、具体化する。

アクションプラン 4

- 国際化の推進・充実化に必要な情報や組織体制・環境について調査・整理し、原案をまとめる。

(自己評価) B

(進捗状況) 全国の大学の取り組みについて、本学の状況に近いものを中心にリストアップした。

(改善方策) 2024年度アクションプランに追加し、リストアップした内容を精査・整理した上で、本学の国際化の推進・充実化に結びつく具体案をまとめていく。

■ 中期計画 6

学生の海外研修の在り方を検討し、研修内容を充実させる。

アクションプラン 13

- 海外研修の実施結果を踏まえ、目的・内容を検討・整理する。

(自己評価) C

(進捗状況) 学生参加者が最少催行人数に達せず、海外研修は実施できなかった。

(改善方策) 2024年度アクションプランに追加し、費用対効果もふまえた、より魅力的なプログラムを企画するとともに積極的な動員を推進し、海外研修を実現する。

《ドメインⅥ》学生支援の充実

■ 中期計画 2

これまで実施してきた手法の課題を踏まえ、より効果的かつ効率的なデータ収集・分析・共有の手法の開発に取り組む。

アクションプラン 6

- 学内で保有している学生支援に関する各種情報(学生データ、アンケート調査結果等)を調査し、新たに収集すべき情報等について検討・決定する。

(自己評価) B

(進捗状況) 学内における当該情報は整理済みだが、管理方法について今後検討が必要である。

(改善方策) 2024年度アクションプランに追加し、情報の管理方法ならびに新たに収集すべき情報等について速やかに検討・決定する。

■ 中期計画 3

要支援学生の傾向分析に基づき、退学・休学・留年等の抑止に向けた、早期発見・対策実行を可能とする仕組みを構築し運用する。

アクションプラン 11

- 要支援学生の区分とそれに適した呼称を検討・決定し、全学で共有する。

(自己評価) B

(進捗状況) 要支援学生の区分について検討を行ったものの決定には至らず、継続検討となった。

(改善方策) 2024年度アクションプランに追加し、要支援学生の区分とそれに適した呼称について速やかに決定し、全学で共有する。

■ 中期計画 4

教職協働による支援を充実させる。

アクションプラン 14

- 担任制や学生相談コーナー、オフィスアワー等の既存の制度・体制について見直しを行う。

(自己評価) B

(進捗状況) 教員からの相談・連絡経路について課題が指摘された。

(改善方策) 2024年度アクションプランに追加し、上記課題の改善も含めて速やかに見直しを進め、より良い支援制度・体制を実現する。

■ 中期計画 6

学修支援の効果を検証し、支援内容を充実させる。

アクションプラン 21

- 学修支援のための教務指導の仕組み(SA・TA、ピアサポート含む)について検討し、実現可能な取り組みについて適宜導入する。

(自己評価) B

(進捗状況) 学習支援のための教務指導について検討し、TA制度の規程化に向けた準備を進めた。なお、SA制度・ピアサポートについては2024年度に継続検討することとなった。

(改善方策) TA制度の規程化を速やかに進めるとともに、SA制度・ピアサポートの実現可能なあり方について検討を継続する。

■ 中期計画 11

課外活動への支援を充実させるとともに学生間の交流機会を増加させる。

アクションプラン 48

- 学友会活動の実状を調査し、課題を把握するとともに活性化に向けた支援策や企画等を検討・実行する。

(自己評価) C

(進捗状況) 学友会の活動状況等のフォローに問題があり、大学祭の準備について課題が残った。

(改善方策) 課題解決もふまえ、学友会活動の活性化に向けた支援策や企画等を学友会役員とともに検討する。

■ 中期計画 12

経済的支援を充実させる。

アクションプラン 52

- 本学独自の新たな奨学金制度(成績優秀者)の導入について検討する。

(自己評価) B

(進捗状況) 導入に向けて、他の奨学金制度・特待生制度とのバランス等を検討し始めている。

(改善方策) 2024年度にさらなる調査を実施し、本学における新たな奨学金制度(成績優秀者)の導入を具体的に検討する。

■ 中期計画 13

人権保護およびハラスメント防止に向けた支援を充実させる。

アクションプラン 57

- 外部講師による「デートDVセミナー(仮称)」を企画・実施する。

(自己評価) D

(進捗状況) 具体的な企画等の検討には至らず、次年度の継続課題とする。

(改善方策) オンライン開催を含め実施計画を策定し、2024年度に実施する。

アクションプラン 59

- 人権保護およびハラスメント防止に関する本学の取り組みについて学内アンケートを実施し、理解度を確認するとともに内容の充実化を図る。

(自己評価) C

(進捗状況) 当初予定は後期終了時の1月末～実施予定であったが、時期を再検討した結果、より適切なタイミングを考え、後期開始時へ実施時期を変更することとなった。

(改善方策) 2024年度以降、後期開始時に学内アンケートを実施するように計画変更する。

■ 中期計画 14

課題分析に基づき、留学生へ必要な支援内容を整理し、支援内容を更に充実させる。

アクションプラン 64

- 多くの留学生に共通する課題や躓きなどを整理し、留学生向け情報として本学サイト等に掲載する。

(自己評価) B

(進捗状況) 留学生向けのガイドブックは、日本学生支援機構のものを使用しているが本学Webサイトにはリンクも含めて掲載できていない。

(改善方策) 2024年度アクションプランに追加し、本学Webサイトへの掲載を速やかに進める。

■ 中期計画 15

日本語能力向上に向けた、入学～卒業までの体系的な支援策を検討・実行する。

アクションプラン 68

- 日本語能力向上のための入学前教育について成果および課題を検証の上、必要に応じて改善策を検討し、関連部署等へ提案する。

(自己評価) B

(進捗状況) 国際交流委員会と連携し、調査を進めている。

(改善方策) 調査結果の検証により課題を見出し、改善策を検討する。

■ 中期計画 16

留学生による大学の特色化(地域貢献活動含む)を促進する。

アクションプラン 71

- 留学生が課外活動(クラブ・サークル活動)に積極的に参加できる方策を検討・実行する。

(自己評価) B

(進捗状況) 留学生に対して個別で声掛けをして案内した。

(改善方策) 留学生アンケート結果もふまえ、活動促進のための方策を引き続き検討・実行する。

■ 中期計画 19

保護者ニーズに基づく情報発信を強化するとともに交流機会を充実させる。

アクションプラン 89

- オープンキャンパスや大学祭等の活用も含め、保護者が大学に訪問する機会について検討する。

(自己評価) C

(進捗状況) 保護者(保証人)会以外での来学促進については未着手。

(改善方策) 他大学での事例も参考にしながら、保護者の訪問機会を増やす対応案を引き続き検討する。

《ドメインⅦ》大学スポーツ振興の推進

■ 中期計画 1

学生ニーズに基づき、スポーツ活動と学業の両立を支援する体制を整備する。

アクションプラン 1

- 学生ニーズを収集するために指定強化部員を対象としたアンケート調査を実施する。

(自己評価) D

(進捗状況) コロナ過の活動制限がなくなった段階で実施する予定であったが、実施を見送った。

(改善方策) 強化部監督および学務部と連携の上、調査内容を精査して速やかに実施する。

アクションプラン 2

- スポーツ支援を専門に行う組織・部署・委員会・担当者の設置を検討し、原案をまとめる。

(自己評価) C

(進捗状況) 学務部職員としてスポーツ支援の専門人材の配置を計画したが、候補者の採用に至らず継続検討となった。

(改善方策) 2024年度アクションプランに追加し、候補者の採用活動を継続する。

アクションプラン 3

- スポーツ特待生制度の継続審査基準、対象要件の見直しおよびスポーツ実績に応じた奨励金制度等について検討し、必要に応じて適宜改定・制定する。

(自己評価) C

(進捗状況) 継続審査は取り決めに従って実施した一方、実績に応じた奨励金制度等については検討できていない。

(改善方策) 支援体制整備として、速やかに奨励金制度等の検討に着手する。

アクションプラン 4

- 指定強化部および活動支援クラブの運営に必要な規程・規則について点検し、必要に応じて適宜改定・制定する。

(自己評価) D

(進捗状況) 2023年度は未実施

(改善方策) 年間計画として、関係者による点検の場を設け、必要に応じた改定を検討する。

■ 中期計画 2

課題分析に基づき、学修支援およびキャリア支援を更に充実させる。

アクションプラン 5

- 文武一道を実践するために、各種データ(学生アンケート結果、教学データ等)を分析し、課題を抽出する。

(自己評価) B

(進捗状況) 指定強化部員の教学データ(取得単位数、GPA、必修科目成績など)についてその状況を確認したが、教学データを含めて分析ができておらず、課題抽出に至っていない。

(改善方策) 2024年度計画として、IR推進課との連携の上、データ分析ならびに課題抽出に取り組む。

■ 中期計画 3

外部機関との連携を踏まえた、強化体制・環境を整備する。

アクションプラン 12

- 企業によるネットの在り方を検討し、ネット体制を構築する。

(自己評価) D

(進捗状況) 未着手のため、継続検討とした。

(改善方策) 2024年度アクションプランに追加し、企業によるネット体制の情報収集を図る。

■ 中期計画 4

強化部による地域貢献活動を推進する。

アクションプラン 13

- 胎内市内の小・中学生を対象としたスポーツ指導のニーズを調査し、ニーズに沿ったプログラムを企画・実行する。

(自己評価) D

(進捗状況) 未着手のため、継続検討とした。

(改善方策) 社会連携推進課とも連携の上、まずは地域の小・中学生を対象としたスポーツ指導のニーズを調査する。

■ 中期計画 6

スカウティング体制を充実し、スカウティング活動を更に推進する。

アクションプラン 21

- スカウティング体制の充実化に必要な課題を整理し、原案をまとめる。

(自己評価) B

(進捗状況) スカウティング活動における課題をヒアリングした。

(改善方策) 2024年度アクションプランに追加し、ヒアリングを通して抽出できた課題に対し、その対策を整理し原案をまとめる。

■ 中期計画 9

安心・安全なスポーツ活動環境・管理体制を構築する。

アクションプラン 27

- より安全・安心な活動を実践するために必要な設備・備品等について整理し、原案をまとめる。

(自己評価) B

(進捗状況) 各部から集めた意見をもとにトレーニング施設の備品の充実を図ることはできたが、設備・備品等に関する関係者の意見を整理・集約することができなかった。

(改善方策) 2024年度のアクションプランに追加設定の上、各競技団体でのガイドライン等の調査および各監督へのヒアリング等を通じて必要な設備・備品等について原案作成する。

アクションプラン 28

- UNIVAS「安全安心ガイドライン」等を踏まえ、部活動における安全管理マニュアルを検討・策定する。

(自己評価) D

(進捗状況) 未着手のため次年度継続課題とした。

(改善方策) 2024年度のアクションプランに追加設定の上、総務課および各監督と連携し、安全管理マニュアルを検討・策定を進める。

《ドメインⅩ》内部質保証システムおよび大学ガバナンスの強化

■ 中期計画 6

学長リーダーシップに基づく大学管理・運営体制(大学ガバナンス機能)を点検・改善する。

アクションプラン 14

- 学長の補佐体制を含む教育職員管理職の役割、権限等を明確にする。

(自己評価) B

(進捗状況) 2024年度より担当副学長制を導入。一方、学部長・学科長の役割、権限等については継続検討。

(改善方策) 2024年度のアクションプランに追加設定の上、学部長・学科長の役割、権限等について速やかに検討を進めていく。

■ 中期計画 9

ダイバーシティ(性別・国籍・年齢などの多様性)への取り組みを推進する。

アクションプラン 22

- 他大学の取り組み等について調査・研究し、本学におけるダイバーシティ方針を策定する。

(自己評価) D

(進捗状況) 未着手のため、次年度継続課題とした。

(改善方策) 2024年度のアクションプランに追加設定の上、総務課(人事担当)を中心に素案作成に着手する。必要に応じてワーキンググループの設置も検討する。

■ 中期計画 11

業務の合理化・効率化に関する取り組みを更に推進する。

アクションプラン 30

- 業務改善に必要な情報(人・物・金の実態、就業環境等)を調査し、改善計画(DX化含む)を策定する。

(自己評価) D

(進捗状況) 未着手のため、次年度継続課題とした。

(改善方策) 2024年度のアクションプランに追加設定の上、各部署にて策定された業務マニュアルから業務改善に必要な情報を抽出し、改善計画(DX化含む)を策定する。

■ 中期計画 12

人権保護およびハラスメント防止に関する取り組みを充実させる。

アクションプラン 33

- 教職員の意識向上に向けた効果的な手段・ツール等について検討する。

(自己評価) B

(進捗状況) 4月の全教員対象のSD研修において、中井副学長主導により、コンプライアンスの観点も含め、人権保護・ハラスメント防止の啓発の機会として利用している。

(改善方策) 人権委員会として、必要に応じてFD・SD委員会とも連携しながら、教職員の意識向上に向けた効果的な手段・ツール等について継続的に検討する。

■ 中期計画 14

リスク管理体制および危機管理体制を点検し、より適切な「予防と対処」ができる体制へと強化する。

アクションプラン 37

- 危機管理基本マニュアルを点検し、必要に応じて改定するとともに個別マニュアルおよび関連規程等を整備する。

(自己評価) B

(進捗状況) 危機管理基本マニュアル全ての点検には至っていないものの、COVID-19対応に係る個別マニュアルの整備等一部については着手済。

(改善方策) 2024年度のアクションプランに追加設定の上、まずは危機管理基本マニュアル全ての点検に着手する。

アクションプラン 39

- 個人情報等の保護管理に関する教育プログラムを継続的に実施する。

(自己評価) D

(進捗状況) 個人情報保護組織規程の教育担当者が未決定のため、2023年度は未実施。

(改善方策) 2024年度速やかに教育担当者を選出し、効果的な教育プログラムを実施する。

アクションプラン 40

- 防災・避難訓練の見直し、防災備蓄品の整備等、防災対策の充実化を検討し、優先度の高い取り組みから段階的に実行する。

(自己評価) B

(進捗状況) 防災・避難訓練はより効果的な実施となるように見直しを図った。また、防災備蓄品について検討し、備蓄品リストは作成済。

(改善方策) 防災・避難訓練については、より効果的な実施に向けて不断の見直しを行う。また、防災備蓄品の整備等、防災対策の充実化については、より優先度の高い取り組みから段階的に実行する。

■ 中期計画 15

コンプライアンスの徹底に向けた取り組みを更に充実させる。

アクションプラン 41

- コンプライアンスを更に推進するための体制・規程等について検討し、優先度の高いものから段階的に整備する。

(自己評価) C

(進捗状況) 入学時回収「個人情報の取扱いに関する同意書」の内容見直しについては、肖像権に関する内容を含んだ同意書作成を検討したが、外部弁護士の指摘に基づき、見送ることとなった。次年度内容の改定に着手し、2025年度新入生オリエンテーション時までに決定を目指す。また、学生の研究に関わる守秘義務の取扱いについては2023年度未着手。

(改善方策) 学生の研究に関わる守秘義務の取扱いも含め、推進体制および備えるべき規程等を検討し、優先度の高いものの整備に速やかに着手する。